

淡水藻類

淡水産藻類属総覧

山岸 高旺 著 B5判・1444頁・定価(本体50,000円＋税)

本書は淡水における藻類、約1500属を収録した淡水藻類の属の総覧である。配列は淡水藻類を12分類群に分けるBourrellyの分類系を採った。これに加え異名とされるもの、関連するものをさらに約800属所収する。60年に及ぶ著者の淡水藻研究の集大成として、淡水藻類の全体像に迫る大著である。本文は、それぞれの分類群の「細胞・藻体」「生殖・生活史」「分類・分類表」を示した後、それぞれの属の記載が中心となり、線画による基本的な図版を示しながら、属の分類基準とされる形態形質、生殖形質、生育状況を述べる。また類似属との関係や産状など特記事項も詳細に記す。学名総索引をはじめ、和文、欧文の事項索引、また属名のカナ読み索引を付した。

小林弘珪藻図鑑

H.Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著 B5判・596頁・定価(本体34,000円＋税)

本書は、珪藻の分類学の成書として長く刊行が待たれていた待望の書であり、斯界の第一人者、故小林弘博士の名を冠するものである。プレートとその解説をはじめ、特殊な用語が多く使われる珪藻の殻構造の解説を電顕写真や線画を添えて分かりやすく示す。分類体系には最新の研究成果を盛り込む。用語の英語、日本語、ラテン語の一覧表や、学名と和名の対照表などを付し読者の便宜を図った。

淡水珪藻生態図鑑

群集解析に基づく汚濁指数DAI_{po}, pH耐性能

渡辺仁治 編著 浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 著 B5判・784頁・定価(本体33,000円＋税)

日本のみならず世界各地から約1500のサンプルを採集、膨大なサンプルの生態情報を処理検討し、約1000種の珪藻についてその結果を分かり易くまとめる。生態情報の妥当性を期するため、すべてのサンプルを統一条件下で採集し、好清水か好汚濁か＝きれいな水を好むのか、汚れた水を好むのか等を判断する環境指標としての珪藻群集の適性を、多くの図版で具体的に示す。

日本淡水化石珪藻図説

— 関連現生種を含む —

田中 宏之 著 B5判・612頁・定価(本体33,000円＋税)

本書は日本の淡水成堆積物から見出された化石珪藻の図説であり、計236分類群を収録する(一部に汽水種、および現生の淡水珪藻も収録)。本文は各分類群の精密な電顕写真、和文解説、和英の図版キャプションから成り、解説の文献欄には、原記載、または標記の所属に組み合わせを行った文献、殻の形態、種の特徴等を理解する上で参考となり入手しやすい文献を示す。試料は前期中新世から完新世までの地層から採取したが、一部は現在の湖沼から採取したものを含み、産出欄等への記載は、現生の浮遊・付着性試料は現生(Recent)、底泥の場合は完新世(Holocene)と記した。用語は基本的にRoss et al.(1979)、小林弘珪藻図鑑(小林ら2006)で示されたものを使用、おもな用語は巻頭に図示した。

新日本海藻誌

— 日本産海藻類総覧 —

吉田 忠生 著 B5判・1248頁・定価(本体46,000円＋税)

岡村金太郎著「日本海藻誌」以来、実に60余年ぶりに刊行された海藻学の決定版。斯界の権威が日本の海藻を網羅して書き下ろした歴史的な大著。綱、目、科、属、種などの分類階級ごとに、形質の特徴、および他との比較などを詳細に記述。また「綱から目へ、目から科へ・・・」わかりやすい検索表が付く。各種ごとに極めて詳細、細緻な文献リストが付される。さらに種ごとにタイプ産地、タイプ標本、分布地域名が示される。学名、和名の由来、生育地の特徴など、関連する話題も豊富。

有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 編著 B5判・596頁・定価(本体20,000円＋税)

本書は海藻の生物学の解説にはじまり、応用の具体的事例を数多く紹介するとともに、今後期待される新分野、機能性成分についても多くの知見を盛り込む。生物学編、利用編、機能性成分編の3編31章から構成され、各分野で長く研究にかかわってきた多彩な執筆者が、それぞれの専門分野を詳述する。

HITACHI
Inspire the Next

Transmission Electron Microscope HT7800series

Revolution of Ultimate Luxury Imaging by Hitachi HT7800 TEM

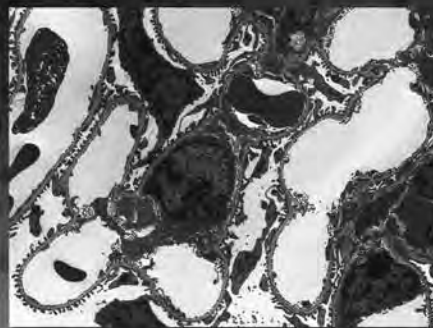
～バイオメディカルから材料まで～

革新的な操作性で、幅広い分野の要求に応える。

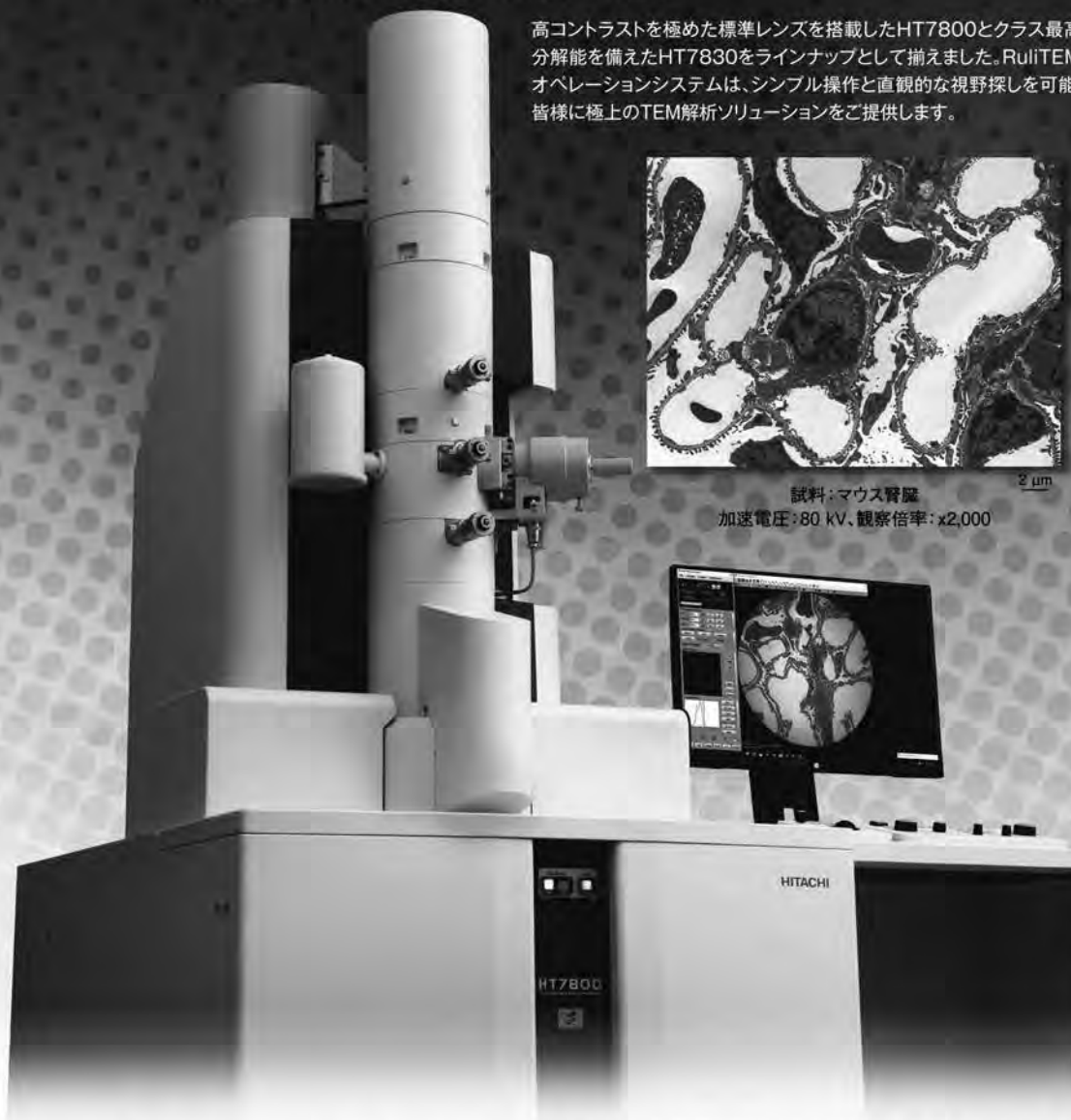
次世代TEM「*Ruli*TEM」誕生。

Debut

高コントラストを極めた標準レンズを搭載したHT7800とクラス最高レベルの分解能を備えたHT7830をラインナップとして揃えました。RuliTEMの新設計オペレーションシステムは、シンプル操作と直観的な視野探しを可能にします。皆様に極上のTEM解析ソリューションをご提供します。



試料：マウス腎臓
加速電圧：80 kV、観察倍率：x2,000



◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

本社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号 電話 ダイヤルイン (03) 3504-6111
インターネットでも製品紹介しております。URL www.hitachi-hightech.com/jp/science/

学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局（庶務）までお申し込み下さい（価格は送料を含む）。

1. 「藻類」バックナンバー

各号、会員価格 1,750 円、非会員価格 3,000 円；30 巻 4 号（創立 30 周年記念増大号，1-30 巻索引付き）のみ会員価格 5,000 円、非会員価格 7,000 円；欠号 1-2 巻全号，4 巻 1，3 号，5 巻 1，2 号，6-9 巻全号。

2. 「藻類」索引

1-10 巻，会員価格 1,500 円，非会員価格 2,000 円；11-20 巻，会員価格 2,000 円，非会員価格 3,000 円；1-30 巻（創立 30 周年記念），会員価格 3,000 円，非会員価格 4,000 円。

3. 山田幸男先生追悼号

藻類 25 巻増補，1977，A5 判，xxviii + 418 頁。山田先生の遺影，経歴，業績一覧，追悼及び国内外の藻類学者より寄稿された論文 50 篇（英文 26 篇，和文 24 篇）を掲載。価格 7,000 円。

4. 日米科学セミナー記録

Contributions to the systematics of benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編，1972，B5 判，xiv + 280 頁，6 図版。昭和 46 年 8 月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で，20 篇の研究報告（英文）を掲載。価格 4,000 円。

5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究

1977，B5 判，65 頁。昭和 49 年 9 月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4 論文と討論の要旨。価格 1,000 円。

6. Proceedings of Algae 2002

藻類 52 巻特別号，2004，A4 変形判，253 頁。平成 14 年 7 月につくば市で開催された第 26 回日本藻類学会大会・日本藻類学会 50 周年記念行事・第 3 回アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議（Algae 2002）のプロシーディング集。43 篇の論文・レビューを掲載。価格 3,500 円（送料込み）。

日本藻類学会ホームページ <http://sourui.org/welcome.html>

藻類

第 66 巻第 1 号

2018 年 3 月 5 日印刷

2018 年 3 月 10 日発行

禁 転 載
不 許 複 製

© 2018 Japanese Society of Phycology
日 本 藻 類 学 会

Printed by Isebu Inc.

編集兼発行者

須田彰一郎

〒903-0213 沖縄県西原町千原 1 番地
琉球大学 理学部 海洋自然科学科
Tel 098-895-8564
E-mail sudas@sci.u-ryukyu.ac.jp

印 刷 所

株式会社イセブ

〒305-0005 つくば市天久保 2-11-20
Tel 029-851-2515
Fax 029-852-8501

発 行 所

日本藻類学会

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1
高知大学理学部
Tel: 088-844-8309
Fax: 088-844-8356（代表）

藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôrui)

第66巻 第1号 2018年3月10日

目次

小園淳平・Gregory N. Nishihara・遠藤 光・寺田竜太：鹿児島県産淡水紅藻オキチモズク	1
<i>Nemalionopsis tortuosa</i> の光合成における光阻害と低温の複合作用	
和 吾郎・木下 泉・平岡雅規・東 健作：四万十川河口域の栄養塩変動がスジアオノリの	7
藻体長と色素含有量に及ぼす影響	
福岡将之・Xuan Hoa Nguyen・鈴木秀和・田中次郎・須田彰一郎：高知県中追溪谷産気生性藍藻	17
ムラサキクダモ属（ユレモ目，ミクロコレウス科）の分子系統位置	
富永孝昭：栃木県で見つかった日本新産紅藻レマネア属（カワモズク目レマネア科）について	24
藻類学最前線	
木ノ下菜々：褐藻遊走細胞の走化性・走光性研究の新展開	27
野村真未・中山卓郎：有殻アメーバ <i>Paulinella</i> のオルガネラ進化の話と被殻構築の話	32
国際・国内会議参加記	
小園淳平：The 8 th Asian Pacific Phycological Forum 参加記	36
鈴木雅大：2017 年度 藻類談話会参加記	37
ミニ企画展「あれも！これも！藻でできる」開催報告	
小林弘幸・佐々木貴史・茅野真司・中澤 敦・路川秀徳・楠田恵美・渡邊 信	39
博物館と藻類	
北山太樹：南方熊楠の海藻標本 一国立科学博物館の場合一	41
学会録事	42
会員異動	44
入会案内・自動会費納入	46
学会・シンポジウム情報	47
賛助会員 他	48
日本藻類学会第42回大会（仙台2018）プログラム	49